

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設の名称	宮城県クレー射撃場
指定管理者の名称	一般社団法人宮城県猟友会
施設所管部課(室)	環境生活部自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	指定管理者	社団法人宮城県猟友会	
平成21年 4月 ~ 平成24年 3月	指定管理者	社団法人宮城県猟友会	
平成24年 4月 ~ 平成29年 3月	指定管理者	一般社団法人宮城県猟友会	
平成29年 4月 ~ 令和 4年 3月	指定管理者	一般社団法人宮城県猟友会	

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	一般社団法人宮城県猟友会
	所在地	仙台市青葉区堤通雨宮町4-17(宮城県仙台合同庁舎内)
指 定 期 間	平成29年4月1日 ~ 令和4年3月31日(5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県クレー射撃場	
所在地	柴田郡村田町大字足立字大平山1番24	
設置年月	平成11年7月	
根拠条例等	クレー射撃場条例	
設置目的	狩猟の適正な実施及び野生鳥獣の保護に関する思想の向上に資するとともにスポーツとしての射撃の普及振興を図るため、クレー射撃場を設置する。	
施設の内容	敷地面積	52,241.73㎡
	構造	木造平屋
施設の内容	内 容	管理棟(大研修室,小研修室,事務室他) 597.06㎡ 付属棟(機械室)28.98㎡ 射撃場 トラップ射撃場 1面 トラップ・スキート併用射撃場 2面 スキート・ラビット併用射撃場 1面 プーラーハウス 4棟 他
	開館(所)日	4月1日~11月30日, 3月1日~ 3月31日の期間で ・火曜日(休日を除く)及び休日の翌日(土,日曜日及び休日を除く)を除く日 12月1日~翌年2月末日の期間で ・月~火曜日(休日を除く)及び休日の翌日(土,日曜日及び休日を除く)を除く日 ・12月28日~翌年1月3日を除く日
開館(所)時間	4月1日~11月30日 午前 9時~午後5時 12月1日~ 2月28日 午前10時~午後4時 3月1日~ 3月31日 午前10時~午後5時	
指定管理者が行う業務の範囲	・射撃場の使用の許可に関する業務 ・射撃場の維持管理に関する業務 ・上記業務のほか,知事が別に定める業務	
利用料金制	採用の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	施設利用料金・標的放出機利用料金

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	295 日	295 日	297 日	100.7%	100.7%
延べ利用者数	4,800 人	5,032 人	5,227 人	108.9%	103.9%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
猟友会	3,000 人	3,030 人	3,241 人	108.0%	107.0%
一般	300 人	282 人	286 人	95.3%	101.4%
県外	1,000 人	1,078 人	1,130 人	113.0%	104.8%
日クレー	500 人	642 人	570 人	114.0%	88.8%
合 計	4,800 人	5,032 人	5,227 人	108.9%	103.9%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	0	0	0		
利用料金収入	24,137	24,863	25,111	104.0%	101.0%
その他	2,792	2,452	2,549	91.3%	104.0%
収 入 計 (a)	26,929	27,315	27,660	102.7%	101.3%

(2) 支出

人件費	12,280	12,892	13,576	110.6%	105.3%
施設管理費	4,238	3,410	3,937	92.9%	115.5%
事業運営費	8,561	7,313	9,088	106.2%	124.3%
その他	1,850	1,718	1,906	103.0%	110.9%
支 出 計 (b)	26,929	25,333	28,507	105.9%	112.5%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1,982	-847		-42.7%
前期繰越収支差額	-	3,409	5,391		158.1%
次期繰越収支差額	-	5,391	4,544		84.3%

自主事業の収支実績(射撃用品等販売、射撃大会事業、射撃奨励事業、教習射撃事業、技能講習受託) ※ 管理運営収支内数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
(1)収入	2,792	2,451	2,549	91.3%	104.0%
(2)支出	1,850	1,718	1,906	103.0%	110.9%
(3)収支	942	733	643	68.3%	87.7%

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	宮城県クレー射撃場管理運営委員会を年2回開催し、収支状況の報告、事業の計画等一般的事項を審議し、適切な管理運営を行なった。 開催日： 平成30年4月16日、 平成31年2月22日		非常勤職員(プーラー)の出勤日数を随時見直し、非常勤職員の経費削減に努めた。来場者が多い日には、職員二人も交替でプーラーをこなした。		A	適正に管理運営がされている。	A
人員体制	正規	2人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の清掃を常時実施するとともに、合併浄化槽の維持管理、受水槽の維持管理、井戸及びろ過装置の維持管理、空調設備理等の契約を締結し、清潔を保つようとした。 建物の警備については、夜間及び射撃場休場日の機械警備の契約を締結し、地元警察署、駐在所等の協力を得るとともに、常に巡点検等を行い、万全を期した。 		<ul style="list-style-type: none"> 設備の保守管理を適切に実施するとともに、冬場の雪かきや夏場の草刈りなど場内の環境整備を適時行なう等、射撃場の管理運営を適正に行い、利用者のため快適に利用できるよう努めた。 県からの賃借物件については、常に保守点検に努め、破損紛失等のないよう努めた。 		A	施設の補修、点検が適時に行われている。また、場内の清掃も行き届いており清潔に保たれている。	A
③運營業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性のため次の事業を行った。 装弾の販売(十二村銃砲店に委託) 射撃用品(ベスト、帽子、手袋等)の販売、ジュース等の飲み物の販売(自動販売機設置) 		計画通り実施した。		A	利用者への物品の斡旋等利便性の確保が図られている。	A
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 射撃大会の実施 7月8日 県猟フィールド射撃大会 146名参加 7月29日 夏季射撃大会 99名参加 10月28日 秋季射撃大会 89名参加 狩猟者等のための講習会の実施 9月27日有害鳥獣捕獲隊員特別研修 86名受講 射撃教習事業(初心者対象の教習) 31名受講 技能講習受託事業(県警からの受託) 47名受講(宮城47名) 		<ul style="list-style-type: none"> 宮城県猟友会の銃所持者数は近年僅かに増加しており、より一層の利用者確保と利用増進を図るため、前年度参加者へのはがき作戦や大会時の賞品を工夫するなど創意工夫により参加者の確保に努めた。 また、冬期間の利用者確保対策として、県外利用者、特に山形県からの利用者に県境支部から声掛けを行うなど利用増進に努めた。 		A	工夫を凝らして、計画どおり実施している。	A
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ホール内を禁煙とし、外部に喫煙用の灰皿を設置。 装弾の販売を十二村銃砲店に委託。 射撃大会の採点のコンピュータ集計を実施。 ホール内に飲料水の給水器(無料)を設置し、利用者への便宜を図った。 		計画通り実施した。		A	射撃大会の採点のコンピュータ集計を行うなど、利用者の利便性確保が図られている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> ご意見カード回収箱を設置し利用者の要望の把握に努めた。 回収したカードについて、管理運営委員会で審議し業務に反映することとしているが、投稿者はいなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の苦情や要望はその都度職員が受け止め対応していることから、カードを記入する人はいなかった。 利用者は特定の方が多くことから、要望等の把握は日常的に出来ているものと考えられる。 		A	利用者が要望や意見を直接スタッフに述べやすい雰囲気づくりが図られているものと評価する。	A
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 建物内外の火災の防止については、消防用設備等保守点検、電気工作物保安等の契約を締結するとともに、防火管理者を定めて消防計画を策定し、所轄消防署の指導を得て、火災予防に万全を期した。 		計画通り実施できた。		A	適切に管理されている。	A
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> 当施設は、狩猟を行う者の射撃訓練研修、及び有害鳥獣捕獲等公益活動の訓練の場とする者、競技射撃を行う者、レジャーとしてクレー射撃を行う者等に広く開放されるものであり、これを同等に受け入れる体制としており、使用拒否の件数はなかった。 また施設は、初級者から上級者まで多様な来場者及び猟友会、クレー射撃協会、銃砲関係者等主催大会が開催されるため、柔軟に対応できるよう日程調整等に十分配慮した。 		<ul style="list-style-type: none"> 狩猟免許試験会場や狩猟免許更新講習会場として利用されるなど公的利用も増え、手軽に利用できる施設としての県民の意識も向上している。 また、県(自然保護課)が企画し実施している「新人ハンター養成講座」の会場として研修室を使用するとともに、射撃場の見学、会員によるイノシシやニホンジカ、キジなどのジビエ料理の提供なども併せて実施した。 		A	競技射撃を行う者、レジャーとして射撃を行う者、また、射撃訓練研修の場や見学会を開催するなど広く開放している。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県猟友会個人情報保護規程により、個人情報の保護に努めた。 個人情報保護規程を職員に周知徹底した。 	計画通り実施した。	A	適正に処理されている。	A
⑩利用実績	入場者数 5,227人 大研修室利用 全日 10回、半日11回 小研修室利用 全日 9回、半日62回 標的放出機使用枚数 T/S 408,710枚、その他18,550枚	前年度と比較すると、「入場者数」「研修室利用」は増加し、「標的放出機使用枚数」も増加している。 これは、東北総体や日本クレー射撃協会主催の大規模な事業があったためであるが、その分を差し引くとほぼ前年度と同じような利用実績となっている。 今後とも、集客の努力を続けていく。	A	前年度比の入場者数は増加しており、それは日本クレー射撃協会主催事業があったことによるもので、集客努力により平年並みの利用であると評価する。	A
⑪収支実績	当期収入合計 27,660千円 当期支出合計 28,507千円 当期収支差額 ▲847千円 前期繰越収支差額 5,391千円 次期繰越収支差額 4,544千円	全職員が一丸となって経費節減に努めているが、最低賃金の改定に伴う人件費(臨時職員)の増、簡易設備や事務機器の老朽化、さらに消費税増税等が懸念材料である。	A	経費節減に努めていることは評価でき、前年度比で収入も増加している。しかし、支出も増加しているため、懸念材料のある中ではあるが、更なる費用対効果を考慮した工夫が望まれる。	B
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 射撃場内における銃砲等の取扱いについては、銃刀法、指定射撃場の指定に関する総理府令等関係法令を遵守するとともに地元警察署等の指導を受け、事故発生の防止に努めた。 環境配慮の取組状況 使用済みクレーを回収し、再利用のため販売業者に引き渡した。 空薬莖を分別回収し、廃棄物処理業者に引き渡した。 自然保護課の指導に基づき、業者に委託して鉛弾の回収を行なった。 	計画通り実施した。	A	事故発生の防止に努めている。また、環境に対する配慮がなされている。	A
総合評価		利用者人口の減少や東日本大震災の影響による収入減、さらに設備の老朽化や設備不足(ライフル射台)による利用者離れなどがあり、クレー射撃場の収支状況は大変厳しいものがある。 収入増加策や経費削減策も限界であり、抜本的な対応が必要になっている。	A	随所に努力のあとが見られ、評価できるものの、狩猟者人口の減少や猟友会会員の高齢化に伴う厳しい運営状況に変わりはなく、今後とも大会誘致や自主企画事業等を含めた集客対策を進めていただきたい。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	建設後の経年変化で、施設の鉄骨部分やテントの金属部分の錆による劣化が急速に進んでおり、早急な対応が必要と考えます。	施設の老朽化や集客につながる施設の改善については、委託・受託両方で協議検討しながら対策に万全を期していきたい。 減少傾向にあった利用者数は、ここ数年回復傾向のあるものの、狩猟者の高齢化に伴う会員数の減少など取り巻く情勢は極めて厳しいものがあることから、新たな集客対策として、自主事業の展開方法の検討など一層の創意工夫が望まれる。